

大型開発・ムダづかいやめ 財政再建で暮らしを守る市政を

LOVE & HOPE NAGOYA

万博、新空港など ムダな大型プロジェクトを見直し、 財政再建をはかります

名古屋市の借金は3兆3千億円(市民一人153万円)に。にもかかわらず、オール与党市政は、愛知万博や中部新空港、徳山ダムなどをすすめ財政破綻へまっしぐら。財政再建の道すじとして、環境破壊の万博は中止し、大型プロジェクトの見直しをはかります。

市民に開かれた 市政を実現します

計画段階から実施過程までの情報を公開し、市民参加・職員参加を市政運営の基本におきます。それに対して、現市長は「すでに決まったこと」「途中では変えれない」と市民や地元住民の「理解と納得」をあとまわしにできませんでした。

障害者、子ども、お年寄りを大切に、 福祉・医療を充実します

現市長は、障害者や乳幼児の医療費無料

制度に所得制限を導入し17600人が有料に。お年寄りの介護保険料は、大阪市や横浜市などでは減免制度がつくられましたが、現市長はその気もありません。

30人学級を実現し、 深刻な教育問題を打開します

中学生の5000万円恐喝事件で深刻な実態が明らかに。不登校などの生徒が急増しています。高校進学率は政令市で最下位です。30人学級を実現し、どの子もすくすくと成長して次世代を担ってくれる教育を。

中小業者の営業を守り、 地域経済を活性化させます

あいつぐ中小業者の倒産・廃業。市の中小企業向けの仕事の発注は政令市で最低クラスです。野放しの大型店進出で、商店数は大幅に減り続けています。大型店進出を規制し、中小企業むけ官公需を大幅にふやします。景気をいっそう冷やす消費税の増税に反対し、3%にもどす運動に賛同します。



選挙ボランティア募集中! 市政を変えたいと願う市民の選挙です。
みなさんのお力を貸してください。

4月22日
名古屋市長
選挙



市民の願いを大切にする **市政に変えたい**

うのていを

市民自治・名古屋の会は、うのていさんの紹介と政策を発表しました。

市民自治・なごや No.2
2001年3月

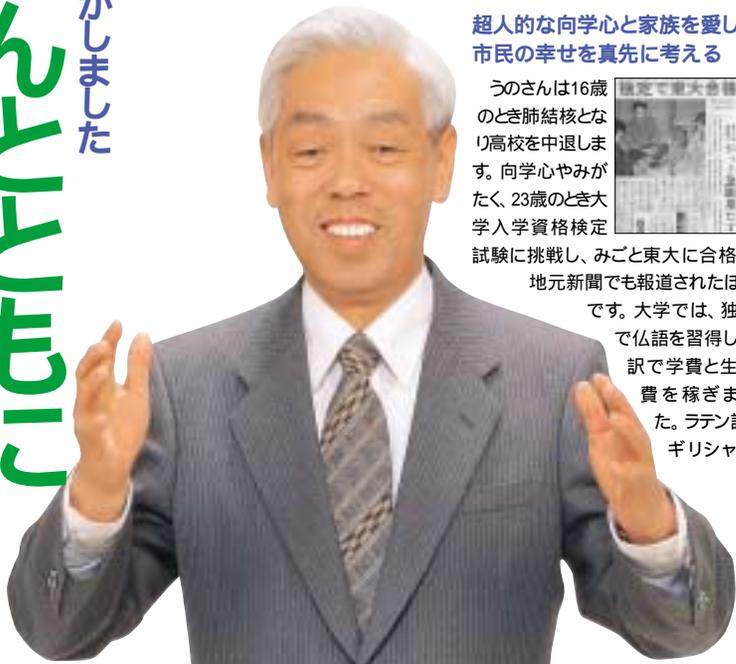
市民自治・名古屋の会

〒460-0006 中区葵2-13-26 第2小林ビル1F
TEL.979-7571 FAX.979-7573
<http://www.shiminjichi-nagoya.com>

愛と希望あふれる名古屋を このていをさんとともに

長野でも栃木でも市民の力が政治を動かしました

市政を変える
絶好のチャンス



うのさんの誠実であったか！人柄 行政手腕に市民の期待が広がっています

うのていを物語

戦後の混乱の中で育った少年期が貧しい者へ目を向けた

うのさんは日本がああ暗黒の戦争に走り続けた1934年(昭和9年)冬、福島県で生まれました。ところが一家の大黒柱だったお父さんが敗戦の3カ月前、ビルマで戦死してしまったのです。「もし、昭和20年3月の御前会議で、天皇が終戦を決断していたら、親父は死なずにすんだ」うのさんは無念の唇をかみしめました。

お母さんは日本通運の小使いさんとなって働きながら、女手一つで2人の息子を必死に育てました。



超人的な向学心と家族を愛し市民の幸せを真先に考える

うのさんは16歳のとき肺結核となり高校を中退します。向学心がたく、23歳のとき大学入学資格検定試験に挑戦し、みごと東大に合格!

地元新聞でも報道されたほどです。大学では、独学で仏語を習得し翻訳で学費と生活費を稼ぎました。ラテン語、ギリシャ語



など10か国語をこなします。卒業論文は「貧困化理論について」でした。

奥さんの裕子(ひろこ)さんとは同じ療養所で出会いました。奥さんもお父さんをアツツ島玉砕でなくし、お母さんは過労で肺結核でなくなり、自分も同じ病いに。その優しい奥さんが、うのさんの市長選出馬の意向を聞き「そんなら離婚したい」と。さんざん話し合った最後に、うのさんは「お前は自分一人の生活のことしか考えていない。おれは200万の名古屋市民のことを考えているんだ。」そしてあくる朝、奥さんは玄関で「体にはだけは気をつけてね」と言って送り出しました。

中堅企業で経営手腕を発揮市の財政再建も市民の立場で

そして就職して名古屋へ。鋳物工場で真黒になって働いている労働者の姿を見て、この人たちのために役立ちたいと思ったのが就職の動機です。仕事は普通の人の2倍から3倍やり、専務取締役になります。倒産寸前の2つの関連会社も再建させました。仕事ができない人も生きる権利があると給与をきちんと保障しました。その経営手腕は、名古屋市政の改革にも、必ずや生



かされます。

「名古屋市政を語る市民の集い」でうのさんは毎日の利払いだけでも3億4千万円という破産寸前の名古屋市の財政状況にズバリこう提言しました。「行政改革をやるにしても、最低限絶対必要な蛋白質とかビタミン、つまり市民生活に直結する予算は、財政が逼迫しても増やす。ぜい肉の炭水化物や脂肪に相当する大型公共事業は思いきって大幅カットすべきです。」これは多くの市民の気持と同じです。

「弱い人とともに歩む」が信条の誠実なクリスチャン

熱心なカトリック信

者でもあるうのさんは神学を学びたいと、仕事のかたわら、南山大学の大学院神学専攻で学びました。担当教授は、うのさんを「人生経験豊かな60代の彼は、謙虚に学び続け、修士論文では、キリスト教古典文学の中で最も難しいとされる人物の思想研究をやり、1500年もの定説をひっくり返しました。まさに並ではない学生です。」

20年以上にわたり献身的に市民運動の先頭にも

昨年までカトリック布池教会信徒会長をつとめ、有珠山噴火、トルコ大地震、湾岸戦争避難民などの街頭募金や、サラ金で追われている人の救済、ホームレス救援の炊き出しの市民運動に参加しました。現在はカトリック名古屋教区信徒協議会副会長として活動を続け、絶大な信望を得ています。



「上質の文人性」と評価される作家うのていをさん

うのていをの名はベンネ・ムで本名は三本木國喜(さんぼんぎ・くによし)さん。多忙な日々の中でも12冊の小説を執筆しました。地元新聞の文芸評論などでも、「上質の文人性薫る作品」珍しい題材に注目すべき佳品」等々と高く評価されています。

うのさんは自らの経歴書にこう記しています。「好きな言葉」<幸いなるかな平和をつくる人、その人は神の子と呼ばれる(マイイ伝より)> <信条>「常に自ら貧しいものとして、貧しい者と共に歩む」



平和・人権の先進都市なごやにうのていをさんに期待高まる

出馬表明の記者会見で「名古屋を平和と人権を尊重する街にしたい。財政破綻をくい止め市民参加の市政に変革します。社会的弱者のくらしを守り、福祉や医療を充実させるために働きます。経歴書の最後にこう記しました。「今日の問題は何ぞ? たたかうことなり。明日の問題は何ぞ? 勝つことなり。」(ヴェクトル・ユゴ -)

並ではない超人的な向学心をもつうのていをさん! 温厚な人柄でありながら、いざという時にはひるまず敵にたちむかう闘争心をもち、「オ・ル与党の名古屋市政にうち勝って、市政を市民の手に取りとどす役割になえるのは自分しかない」と決意したうのさんに市民の期待が広がっています。